



30年1月号

<1月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17:00～19:00
土曜日・・・15:00～17:00

- 4日(木) 17:00～19:00 稽古初め
- 5日(金) 5:00～7:00 埼玉大学寒稽古 後半(埼玉大学体育館)
～12日(金)
- 6日(土) 15:00～17:00 鏡開き
- 21日(日) 鳳翔剣大会(埼玉大学体育館)
- 27日(土) 寒稽古打ち上げ ※駒場体育館が使用できないため、稽古場所は未定です。
※夜の修道館のお稽古はありません。

<2月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17:00～19:00
土曜日・・・15:00～17:00

- 3日(土) ※駒場体育館が使用できないため、稽古場所は大宮武道館になります。
- 17日(土) 13:30～15:00 新現合同役員会(駒場体育館 2F会議室)
- 24日(土) 月例試合稽古
- 未定 少年強化練習会 ※対象者のみ

<3月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17:00～19:00
土曜日・・・15:00～17:00

- 3日(土) 平成29年度後期昇級審査会(駒場体育館 剣道場)
- 24日(土) 平成29年度浦和少年剣道錬成会・審判講習会(駒場体育館)
- 31日(土) 13:00～17:00 6年生を送る会(駒場体育館 剣道場)
19:00～22:00 6年生の保護者を送る会
※夜の修道館のお稽古はありません。

こまけんだよりは公式サイトでもご覧いただけます。是非カラーでもお楽しみください♪

<http://www.geocities.jp/KomabaKenhp/index.html>



本荘先生からのお言葉

新年明けましておめでとうございます

新しい年を迎えました。気持ちを新たにスタートしましょう。毎年話していることですが、この時期に一年間の目標をたてるのが大事です。剣道の面でも目標を。埼玉大稽古で門谷先輩が話されていましたよね。「こうなりたいという自分をイメージして、そこに向かって努力する。」一年後の自分をイメージして目標をたてましょう。



さて、12月、1月にわたる駒剣寒稽古の半分を終えました。切り返し、かかり稽古中心の稽古なのでしょんどいと思います。同じことを繰り返し行うので、単調でつまらないなあという気持ちが起きるかもしれません。ただ、この繰り返すことが大事で、何千回、何万回続けることで形ができてくるのです。また、稽古中防具を外さないよう言っていますよね。稽古中すぐに着装が乱れるようでは一人前の剣士とは言えません。どうかしっかり着装ができそれを維持できるようにしてください。稽古として、おおむねよくやれていると思います。後半の1か月はさらに自分の課題を解決すべく、工夫を凝らして稽古していきましょう。

前半戦の最終日、今年の稽古納めは23日(土)修道館をお借りしての駒剣クリスマス会でした。今年も二部構成で一部は四色対抗試合、二部はお楽しみ、プレゼント抽選会やゲーム大会で盛り上がりました。試合は面白い取り組みが目白押しでした。「Sさんが6年生2人に初太刀でやられたのは、被りものせい？それとも実力？」そんな声も聞こえてきました。(笑)二部も楽しかったですね。当日までにいろいろとご準備くださった方がいらして、当日あのような盛大な会となったわけです。本当にありがとうございました。お世話になりました。

そして、駒剣寒稽古のオフの期間を埋めるかのように、埼玉大学寒稽古が24日(日)から始まりました。年内7日間が終わりましたが、今回も駒剣メンバー大勢が参加してがんばっています。29年度入会組の姿も見られます。体育館に一番早く来てランニングポジションを確保してくれた新人君もいてびっくりしました。今までギャラリーで見取り稽古していたお母さん剣士も毎朝ランニングから参加していて頭が下がります。礼式の整列で埼玉大生のすぐ後ろに陣取り、前方の先生方に基本打ちをお願いしている駒剣士の数が多いのは、今までの先輩から引き継がれてきた良き伝統ですね。後半8日間もできる範囲でがんばっていきましょう。



私の昨年の稽古回数は129回でした。決して多い数ではありません。ですがここ数年ずっと右肩下がりでしたので、ひさしぶりに回復し一昨年と同じくらいの回数に増えました。今年も、心身共に健康を維持しコンスタントに稽古を行うことを目標とし精進します。剣道はお相手がいれば稽古ができますので、本年も皆さん、よろしくお願いたします。

1. 1. 1. 2. そうれ～

新ジャイアンのはなうた♪



よっ！ みんな、元気か？

そして、明けましておめでとう。みんなはどんなお正月を過ごしたかな？

おっと、1月号は1月6日発行だから、冬休みの宿題が終わらなくてあせっている人も多いかもな。そういえば、ジャイアンも、宿題が間に合わなくて、泣きながらお姉さんに頼んで、絵を書いてもらったことがあったなあ〜。え？ ジャイアンにはお姉さんはいないはずだって！ そうなんだけど、駒剣のジャイアンには、世界一コワイお姉さんがいるのです。

さて、毎年のことだけど、お正月は気持ちを新たにして、新しい目標を決めることが大切だな。いろんな先生に言われていると思うから、しつこくは言わないけど、目標を決めて、それを達成すると、すごくうれしいぞ。そして、自信になるぞ。簡単なものでもいいから、是非、目標を決めてくれよな。

次に、寒稽古について、感じたことを少し。

寒稽古では、元立ちの先生に並んでかかっていく形をとっているよな。だから、サボろうと思えばいくらでもサボれるよな。埼玉の寒稽古でも、自分の順番が近づくと、スッと隣の列に移動している人なんかいて、駒剣の子じゃないことを確認してホッとしたりするシーンがあるぞ。それと、取れてもいないのに面をつけなおしたり、胴ひもを結びなおしたりしている人も多いな。もっと言うと、苦しいかかり稽古の時間は、面をつけなおしたりして時間をつぶして、地稽古になると出ていく人もいたぞ。こんな人は駒剣にはいないと思うけど、こんなことをしていたら、気持ちのいい稽古ができないよな。元立ちをしてくれている先生方に失礼だというだけでなく、自分にとっても充実した稽古にならないから、朝早く起きてせっかく参加したのに、稽古がムダなものになってしまうよな。そして、まわりの人からは、「あ、〇〇中学の子ね。」とか、「〇〇剣友会の子ね。」「あそこはこういう子が多いんだよな。」とか「どんな指導しているんだろう。」なんて思われてしまうので、仲間や先生にも迷惑をかけることになるぞ。

どこに行っても、自分の名前と駒剣の名前を背負っていることを忘れないようにしないと。

最後に、かかり稽古について。

何度も言っているけど、かかり稽古は、あいているところをどんどん打っていく稽古なので、元立ちが打ってきたのをよけたり、打ってくるのを待って返したりするのは、かかり稽古ではないんだ。元立ちは、休ませないように打ってきたり、相面や出ばな技を打たせるために打ってきたりしているんだから、それをよけたり、返したりしたんじゃ話にならないよね。とにかく、休まずに、どんどん打っていく。ヘトヘトになって腕が上がらなくなるくらいまでやる覚悟で打っていく。それがかかり稽古だぞ。みんなのガッツを期待しているぞ。

正月早々、説教めいた話でごめんな。でも、大切なことだと思うぞ。みんなも考えてみてくれよな。じゃ、またな！

太郎の百錬自得



第46回

新年明けましておめでとうございます。年末年始、健やかに過ごすことができましたでしょうか？私は年末風邪気味ではありましたが、大事に至らず、2017年を振り返ったり、2018年に向けた準備をすることができています。さて、2018年はどんな一年になるでしょうかね。何はともあれ、いつも、今この瞬間、瞬間を大切にしていきたいものだと思います。

年末、「私の剣道修行」という本を読みました。範士の先生方がどのような稽古を積み重ねて来られたか、という内容です。大きくふたつ感銘を受けたことがありました。

まずひとつめは、努力です。どの先生もまさに血の滲むような稽古をしてきたということがよくわかりました。戦争中でも、戦後剣道をやりにくかった頃でも、そして、経済的に困窮していても、とにかく稽古をしておられる。剣道の才能があるというよりも、努力できる才能がある。少しやればある程度できる、小器用な人間では大成できない。そこに如何に努力できるか、情熱を注げられるか、ということです。まさに「努力に勝る天才なし」です。

ふたつめは、師です。みなさん、良い先生と出会い、その出会いを大切に、縁を広げておられる。そして、また良い出会いがある。人間というものは、努力している人間、礼を失わない人間を応援したくなるんですね。師とは、剣道の教え方が必ずしも素晴らしいとかではなく、弟子の力を信じて伸ばすことができるかどうかが大変なのだとも思いました。人生皆師、ですね。

剣道は、敵を打ち破る術として発展しながら、自分に克ち、他人を活かすところまで昇華されてきました。先人たちの思いに触れて、少しでも自分の糧にしていきたいものです。

そんなわけで、今回は「兵法家伝書」から抜粋したものを紹介したいと思います。「兵法家伝書」は、柳生新陰流の柳生但馬守宗矩が記したものです。柳生は徳川将軍家師範で有名ですし、新陰流は数ある流派のなかでも相当に影響力のある流派です。

懸とは立ちあふいなや、一念にかけて、きびしく切てかかり、先の太刀をいれんとかかると懸と云也。敵の心にありても、我心にても、懸の心持を同事也。

待とは、卒爾にきつてかからずして、敵のしかくる先を待を云也。きびしく用心して居るを待と心得べし。懸待は、かかると、待との二也。

その意味は、

「懸」とは立ち会うやいなや、一心をこめて、きびしく切りかけ、先手の太刀をとろうとかかるとをいう。敵の心も自分の心においても、懸の心持ちは同じことである。

「待」とは、いきなり切つてかかるのではなく、敵が先手をとろうと仕掛けてくるのを待つことをいう。厳しく用心しているのを待と心得よ。

ということになります。

ただし、重要なことは、ここの「待」です。

待といっても、守ることだけ考えているのではなく、敵がかかってくるのを逆に攻勢に出ていくということを含んだ意味になっています。抜粋なので、そこまで意味が通じませんが、懸待、どちらも攻勢に出るための心得だと思ってください。

次回、ここからまた続きを説明したいと思います。

それでは今年もよろしくお祈りします。

クリスマス会の試合結果

	サンタ	トナカイ	ツリー	雪だるま	勝	負	分け	勝者数 (本数)	順位
サンタ		6 (13)	4 (8)	6 (13)	1	2	0	16 (34)	3
トナカイ	6 (14)		4 (6)	5 (11)	2	1	0	15 (31)	2
ツリー	5 (11)	6 (12)		8 (16)	3	0	0	19 (39)	1
雪だるま	4 (10)	4 (7)	4 (10)		0	3	0	12 (27)	4

※訂正とお詫び

クリスマス会でのゲームの順位に誤りがありました。

正しくは、1位サンタチーム・ツリーチーム、3位雪だるまチーム、4位トナカイチームとなります。

試合の順位にも誤りがありました。正しくは上記となります。

総合結果は変わりません。お詫びして訂正いたします。



クリスマス会チーム編成

	先鋒	次鋒	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	審判員
 サンタクロース	上岡(兄)	小澤	秋本	石井(母)	住屋	渡辺	飯山	依(弟)	新井	橋本	武笠(父)	飯田(兄)	本荘	木村
 トナカイ	依(兄)	柴田	加藤	上岡(母)	武笠	福島	竹中	高木	関口	花家	清水	齋田	山田	渡邊
 ツリー	寺島	矢嶋	岩田	竹中(母)	渡邊(柚)	近藤	飯田(弟)	上岡(弟)	宮島(父)	林	稲森	渡邊(柚)	長谷部	石井
 雪だるま	今村	杉山(弟)	品田	小澤(母)	岸波	田村	宮島	西岡	飯山(父)	内田	山崎	佐藤	尾島	

